

さいたま市長 2月定例記者会見

平成26年2月10日（月曜日）

午後1時30分開会

○ 進 行 定刻となりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。
それでは、記者クラブ幹事社の朝日新聞さん、進行をよろしくお願いたします。

○ 朝日新聞 2月の幹事社を務めます朝日新聞と申します。よろしくお願ひします。
それでは、本日の記者会見の内容につきまして、市長のほうから説明をお願いします。

○ 市 長 皆さん、こんにちは。
2月4日の立春を過ぎましたが、体感的には冬本番の日が続いております。8日には市内で10センチ以上の積雪となり、記録的な大雪が降りました。一部交通機関の乱れと雪かきなどによりまして、市内で犠牲者が出るなどの被害も伺っております。被害を受けた皆様には心よりお見舞いを申し上げたいと思います。

そのような中、大雪の影響によりまして、一部の学校で入学試験の開始時間に影響が出たとも聞いております。2月は、高校、大学受験シーズンのピークであります。これまでの努力の成果が試される大切な時期でありますので、できるだけいい環境で試験に臨んでいただきたいと思っております。受験生の皆さん、あと少しでございます。流行が本格化したインフルエンザなどにも十分注意しながら、すばらしい春を迎えるために、この冬を乗り越えていただきたいと思ひます。皆様のご健闘をお祈りいたしております。

市長発表：議題1「さいたま市議会2月定例会提出議案について」

それでは、本日の議題に入らせていただきます。

まず初めに議題の(1)であります、「さいたま市議会の平成26年2月定例会提出議案の概要について」ご説明をさせていただきますと思ひます。

まず、2月定例会につきましては2月7日に開会をさせていただきます

た。既に議決済みの議案を除きました議案数は、86件ということになります。予算議案が32件、条例議案が39件、一般議案が5件、そして道路議案が2件、人事議案が7件、諮問議案が1件ということになっております。

続きまして、予算議案について説明をさせていただきたいと思っております。平成26年度予算につきましては、予算要求時点では多額の収支不足が生じる大変厳しい予算編成となりましたが、既存事業のさらなる見直しや徹底した行財政改革を進めるとともに、限られた予算を効率的、効果的に配分させていただきました。

具体的には、新たにスタートいたします総合振興計画の後期基本計画を踏まえるとともに、「しあわせ倍増プラン2013」、また「さいたま市成長戦略」を推進するために、待機児童対策、また東日本の中枢都市としてのまちづくりなど各分野の主要事業に重点配分するなど、本市が持続可能な発展を続け、選ばれる都市の実現を目指す予算編成を行ったところであります。

一般会計につきましては、先ほどご説明しましたとおり、各分野の主要事業に重点配分した結果、4,649億円、これは前年対比3.9%増ということになります。

特別会計につきましては、高齢化に伴うサービス給付費の増などによります介護保険事業特別会計の増などによりまして、前年比1.0%増の3,152億5,800万円ということになっております。

また、企業会計につきましては、新会計基準適用に伴います退職給付等の引当金の影響などによりまして、前年比10.1%増の1,184億3,204万6,000円ということになっております。

全会計の総額につきましては、8,985億9,004万6,000円、前年比3.6%の増ということになり、過去最大規模の予算でありまして、積極的な予算と考えております。

次に、各分野の主要事業を紹介したいと思います。

まず1つ目 (の分野) は、健康福祉の分野でございます。

「スマートウェルネスさいたま関連事業」としまして2,463万

2,000円を計上いたしました。「健幸」で元気に暮らせるまちの実現に向けまして、健康づくりを支援するためのモデル事業となります健康サポート事業、各区のウォーキングイベント、普及啓発を図るためのシンポジウム等、関連事業を実施をしております。

2つ目が市立病院施設整備事業2億3,632万1,000円でございます。市民に対する安心で安定した医療の供給の継続と医療機能の強化を図るために、救命救急センター設置を含めました施設の基本設計、託児棟移設等を実施する予定でございます。

3つ目が待機児童対策関連事業ということで、137億9,667万7,000円を計上いたしております。これは、保育所待機児童の解消を図るために、保育需要の高い地域に認可保育所を整備するほか、多様化しておりますニーズに対応するために、保育コンシェルジュを引き続き全区に配置をしております。さらに、家庭的保育事業、いわゆる保育ママ事業というものを新たに実施いたします。

2つ目(の分野)は、教育、文化、スポーツの分野でございます。

まず、1つ目が「(仮称)さいたまトリエンナーレ開催準備事業」ということで4,244万2,000円を計上しております。これは、平成28年度に国際的な芸術祭の開催に向けまして準備委員会を設立し、開催方針及び事業計画を検討するとともに、彩の国さいたま芸術劇場におきましてキックオフイベントを開催する予定となっております。

2つ目が「スクールアシスタント配置事業」で4億6,022万7,000円を計上いたしております。これは、学校に配置をしております少人数指導等支援員、学級等支援員等7つの「補助要員」というものを発展的に統合して、新たに教員免許状を有する「スクールアシスタント」というものに統合して各学校に配置させていただくというものでございます。

続きまして、3つ目(の分野)は都市基盤、交通の分野でございます。

1つ目が「(仮称)アーバンデザインセンターみその」の設置として1,820万2,000円を計上いたしております。これは、みそのウイ

ングシティの成長・発展に向けたまちづくりを推進するための情報発信等の拠点としての基本構想の策定や実施設計等を実施してまいります。

2つ目が「(仮称)アーバンデザインセンター大宮の設置」ということで900万円を計上いたしております。これは、大宮駅周辺地域戦略ビジョンで掲げました「民官協働」の場の推進のためのセンターの機能や運営方法等の検討を実施していくものでございます。

そして3番目としまして、「広域交通拠点調査検討」ということで700万円を計上いたしております。これは、東日本の交通の要衝であります大宮駅につきまして、鉄道事業者や県など関係者による研究会等を通じて、駅機能の高度化実現に向けまして、現状の課題あるいは将来像に関する調査検討を行ってまいります。

また、4番目としましては、「浦和駅西口南高砂地区第一種市街地再開発事業」につきまして21億3,548万4,000円を計上いたしております。これは、県都の玄関口にふさわしい町並みを実現するために、浦和駅西口南高砂地区の再開発を推進するとともに、浦和西口停車場線を整備促進するというものでございます。

続きましては、「大宮駅東口大門町2丁目中地区第一種市街地再開発事業」に3億4,000万円計上いたしております。これは、市民サービス、商業、業務等の拠点形成に向けまして、市街地再開発組合が実施いたします施設建築物の実実施設計や権利変換計画の作成等に係る費用の一部を助成いたします。

6つ目が「さいたま新都心将来ビジョン推進事業」ということで、2,332万1,000円を計上いたしております。これは、さいたま新都心将来ビジョンに掲げます目標実現に向けまして、北袋1丁目地区における適正な土地利用転換の促進や、防災機能を持った都市公園及び交通広場等の整備の検討を実施してまいります。

そして、7番目が「自転車通行環境整備事業」で2億8,492万円を計上いたしております。これは、歩行者の安全性を確保した上で、自転車の安全で快適な走行を実現するために、自転車の利用環境の整備を実施してまいります。市内6カ所で今年度は15キロを推進してまいります。

続きまして、産業、経済の分野につきましては、「世界盆栽大会関連事業」ということで1,819万円を計上いたしております。平成29年度の世界盆栽大会の開催に向けまして、大宮盆栽を世界に発信し、国内外からの観光客を誘致するために、大会広報活動に関する業務や大宮盆栽美術館のウェブサイトのリニューアル、アクセス道路調査業務等を実施してまいります。

次に、安全、生活基盤の分野でございますけれども、1番目は「WHOの認証取得」という事業で842万8,000円を計上しております。WHOが推進する、市民が安全に安心して暮らせる地域社会の実現のための国際セーフコミュニティの認証取得や、児童生徒の安全を一層確保するためのインターナショナルセーフスクールの認証取得に向けた取り組みに着手をしております。

次に、「消防力等整備事業」ということで18億972万円を計上いたしております。これは、(仮称)緑消防署等複合施設の建設等を実施してまいります。

最後に、その他の分野といたしまして、「区役所窓口総合サービス向上事業」ということで700万円を計上いたしております。これは、民間のノウハウを活用して、職員接遇に関する現況調査を行い、調査結果に基づいた接遇改善を実施していこうというものでございます。予算案については以上です。

続いて、主な条例議案についてご説明をさせていただきたいと思います。まず初めに、「さいたま市事務分掌条例の一部を改正する条例」ということで、局相当の組織として都市戦略本部を設置しますということについてお話をします。

これは、戦略的な都市経営に係る企画立案及び部局横断的な総合調整並びに行財政改革のさらなる推進を一体的に行うことにより、一層の事務の効率化を図ることを目的にしまして、局相当の組織として都市戦略本部を設置するために条例の一部を改正するものでございます。

この都市戦略本部の中には、都市経営戦略部、行財政改革推進部及びシティセールス部を配置いたします。

2つ目は、「さいたま市職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例」ということで、55歳を超える職員の昇給抑制並びに自宅居住者に対する住居手当及び現給補償措置の廃止ということでございます。これは、市人事委員会の勧告を踏まえまして、現下の社会経済及び雇用の情勢並びに国及び他の政令指定都市の動向等を総合的に勘案しまして、55歳を超える職員の昇給抑制並びに自宅居住者に対する住居手当及び現給補償措置を廃止するため、条例の一部を改正するものでございます。

また、技能職員及び水道局企業職員の自宅居住者に対する住居手当を廃止するため、さいたま市技能職員の給与の種類及び基準に関する条例及びさいたま市水道局企業職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部を改正させていただくものでございます。

次に、3番目でございますが、「さいたま市事務手数料条例の一部を改正する条例」ということで、平成26年10月から各種証明事務等に係る手数料を改定するというものでありまして、自動交付機等による証明書の交付手数料は据え置きとなっておりますが、それ以外の手数料については改定をさせていただくというものでございます。

これは、適正な受益者負担を確保する観点から、平成26年10月から各種証明事務等に係る手数料を改定するとともに、自動交付機及び民間端末機によりまして交付を受ける場合の証明書の交付手数料を据え置く等、条例の一部を改正するものでございます。

また、納税証明書の交付事務等に係る手数料及び住民票または戸籍の附票の写しの交付事務等に係る手数料についても同様に改定するために、さいたま市市税条例及びさいたま市戸籍等関係事務手数料条例の一部を改正するものでございます。

続きまして、4番目、「さいたま市コミュニティ施設条例等の一部を改正する条例」ということで、平成26年10月から施設利用許可の取り消しの申し出によります使用料または利用料金の全部または一部の還付を開始するというものでございます。

これは、施設の効率的な運営並びに利用者の利便性の向上を図るために、

平成26年10月以降に施設利用許可の申請がされたものから施設利用許可の取り消しの申し出による使用料及び利用料金の全部または一部の返還を開始する等、3条例の一部を改正するものでございます。

続きまして、5番目でございますが、「さいたま市下水道条例の一部を改正する条例」でございまして、平成26年7月分から下水道使用料を改定するというものでございます。これは、下水道事業会計及び下水道使用料の適正化を図るために、平成26年7月分の下水道使用料から平均改定率21.6%の引き上げを行う等、条例の一部を改正するというものでございます。

最後に、主な一般議案についてご説明をさせていただきます。

財産議案についてでございます。独立行政法人年金・健康保険福祉施設整理機構が社会保険大宮総合病院を市が所有する土地に移転するに当たりまして、当該土地と同機構が所有する土地とを交換するための議決を求めるものでございます。議題1については、以上でございます。

市長発表：議題2「指扇駅南北自由通路・駅舎橋上化による北口が開設されます」

続きまして、議題2、「指扇駅南北自由通路・駅舎橋上化による北口が開設します」についてご説明をさせていただきます。

「指扇駅周辺まちづくり推進事業」の一環として進めております指扇駅南北自由通路設置・駅舎橋上化工事につきましては、平成24年6月の工事着手以来、工事もおかげさまで順調に進み、本年3月9日から北口開設の運びとなりました。

今回供用開始となる指扇駅は、高齢者や障害者の方が安全快適に利用できるようにエレベーターやみんなのトイレを設置するなどバリアフリー対応としたほか、また電力消費量の低減に向けまして、LED照明や太陽光パネルを採用するなど環境に配慮したものとなっております。

まず、指扇駅の位置からご説明いたします。指扇駅は、この場所でありませんが、大宮駅から日進、それから西大宮駅の次の3番目の駅でございます。さいたま市の西区の宝来というところに位置しておりまして、市内で一番西にある駅ということになります。1日の乗降客数は、平成24年末

で2万2, 286人で、市内33ある駅のうち20番目の数ということになります。

現在市では、平成13年以来、「指扇駅周辺まちづくり事業」を推進しておりまして、今後指扇駅周辺地区は市民生活の地域拠点として、交通利便性の向上など生活基盤施設の一層の充実が期待されている場所でもございます。

続きまして、新しく生まれ変わります指扇駅についてご説明をさせていただきます。

事業期間は平成24年3月28日から平成27年3月31日までの約3カ年で進めてまいりました。

事業費は約24億8,000万円で、東日本旅客鉄道株式会社と施行協定を締結して、現在事業を進めさせていただいております。今回の開設の日時は3月9日日曜日4時49分発池袋行きの初電からスタートすることになります。

(画面を指さし) こちらは、今回供用開始をいたします指扇駅の北口、新たに開設される方でございます、これが完成予想図ということになっております。

今回の指扇駅の外観は、指扇駅周辺に多くの社寺があることから、日本建築の特徴であります日本瓦をイメージした配色となっております。また、古くから土に親しんできた地域性があり、一部に土をイメージしたレンガタイルを使用しております。

(画面を指さし) こちらは南口でございます、従来からある出口の方でございますけれども、これが完成予想図ということになります。構造は鉄骨造で3階建て、高さは16.5メートル、今回新設した南北自由通路の延長は約37メートル、通路の幅員は約6メートルということになります。

なお、3月の時点では、現在使用している仮駅舎や跨線橋などの施設がまだ残った状態でございます。

(次の画面を指さし) この左側が南北自由通路、これはさいたま市が管理する自由通路ということになります。この右側のほうがJR東日本が管理する改札口の予想図ということになります。

続きまして、バリアフリー設備ではありますが、エレベーターは自由通路の南北に各1基ずつ、駅舎内の上り下りのホームに各1基ずつ設置してまいります。

バリアフリー対応の「みんなのトイレ」につきましては、自由通路南北階段下の1階部分にそれぞれ一般の男女別トイレとあわせて設置いたします。

駅舎内は、2階改札内右側に男女別トイレとあわせて設置してまいります。また、エスカレーターを自由通路の南北階段脇にそれぞれ設置し、駅舎内では上り下りホームの階段脇のそれぞれ設置しています。

最後に、関連事業の指扇駅の北口駅前広場についてご説明をさせていただきます。(画面を指さし)この場所でございます。

駅前広場の面積は約3,500平米、バス、タクシー及び身障者用の乗降所を設置いたします。仮駅舎、跨線橋の撤去など、指扇駅橋上化の残工事の作業ヤードとして使用することから、北口開設時にはまだ完成をしておりません。完成予定は、平成26年度末を予定しております。

これまでの指扇駅は南口だけでございまして、駅北側にお住まいの方には非常に不便をかけておりました。また、鉄道により地域が分断されていたことなどから、地元では駅の橋上化に向けた「まちづくり協議会」が発足するなど、北口開設は地元の皆さんの悲願でもございました。この北口の開設によりまして、駅北地区はもとより、指扇地区の安全性、利便性の向上と駅南北地区の交流促進が図られ、今後のまちづくりを進める上で非常に有効であると考えております。

以上で私からの議題の説明を終わらせていただきます。

○ 朝日新聞

ありがとうございます。

議題に関する質問

そうしたら、市長からの説明について幹事社からまず質問したいと思えます。予算のほうなんですけれども、今回特に力を入れた、または思い入れのある事業をお聞かせください。そして、新規事業で目玉になるものはどの事業なのかというのをお聞かせください。

○ 市長

それでは、ご質問にお答えをしたいと思います。

まず、特に力を入れた事業ということでございますけれども、平成26年度予算の主な新規事業あるいは拡大事業として、健康・福祉の分野、あるいは都市基盤、交通の分野など16の事業を挙げさせていただいたところでありますが、特に入れたものの一つがまずは「待機児童対策」ということであります。

来年4月から始まる予定の子ども・子育て新制度を見据えまして、認可、認可外保育所の増設による定員増や保育コンシェルジュによる保育サービスに関する情報提供など引き続き実施するとともに、1歳児、2歳児保育の入所枠の拡大、また保育ママなど新たな施策を展開することによりまして、多様化する保育ニーズにきめ細かく対応してまいります。

続いては、市民が安心して暮らしていくための医療体制、特に救急を中心とした医療体制の充実という事業も力を入れたものであります。

まず1つが、先ほどもご説明しましたけれども、市立病院の事業でございます。

安定した医療の提供と医療機能の強化を図るために、救命救急センターの設置を含めた施設整備に着手してまいります。

また、社会保険大宮総合病院におきまして、市有地との財産交換手続を行うこととしておりまして、新病院開設に向けて大きく前進し、地域に根差した医療の提供、また初期救急医療、また特に社会保険大宮病院は周産期の救急が大変充実をしているということでございますので、こういったものを市民の安心が確保できる事業ということで大いに期待し、また力を入れているところであります。

そして、もう一つが東日本の中枢都市としてのまちづくりに関する事業でございます。来年度末には、北陸新幹線の長野・金沢駅間が開業して、その1年後には北海道新幹線の開業が予定されておりますが、既存の5つの新幹線との結節点となります大宮駅について、駅の機能の高度化に関する調査検討を関係機関とともに実施（会見後追加）してまいりたいと考えております。

また、さいたま新都心周辺におきましては、今年度策定をいたしましたさいたま新都心将来ビジョンに掲げる目標に向けて、事業展開を見据えて積極的に推進してまいりたいと考えております。

また、さいたま市は2都心、4副都心ということで都市づくりを行っておりますけれども、その一方の都心のところにあります浦和駅西口南高砂地区、またもう一方の都心であります大宮駅東口大門町2丁目中地区の再開発事業などについて、特に積極的に取り組む予算とさせていただいております。

新規事業として具体的に幾つか事業を挙げてほしいということでございますが、まず待機児童対策関連事業のうち、5名までの乳幼児の保育を行う家庭的保育、いわゆる保育ママという事業を実施してまいります。

正式には27年度に開始して、そのための準備経費ということになりますけれども。

また今、新設の保育園で、4歳児、5歳児の定員が空いているといえますか、場所がありますので、そこに1歳児、2歳児の入所枠を拡大することによって、特にニーズの高い1歳児、2歳児の対応を充実させていくということであったり、あるいは認定こども園への移行に向けた対策、こういった私立幼稚園への助成といったものを予算化いたしました。

2つ目として、救急医療の部分については、先ほども言いましたけれども、救急救命センターの設置、あるいは施設の整備に着手をしていくための設計に関する予算をつけさせていただいたということ、そして3つ目が、グランドセントラルステーションに向け、大宮駅の高度化に関する調査検討、それから新規事業としては国際セーフコミュニティ、インターナショナルセーフスクールということで、安心安全の都市としてのブランド力を高めるための事業にも取り組んでいくということが特に新しい事業の中での目玉と思っているところでございます。

○ 朝日新聞 ありがとうございます。

それでは、各社さん、お願いします。

○日本経済新聞 日本経済新聞です。

新年度の予算案について、市長が昨年の市長選で掲げた「新しあわせ倍増プラン」と「新成長戦略」、その公約に掲げた政策の予算に落とし込める反映度というのはどのぐらいできたかな、もしくはできない部分として課題として残した部分というのはどういうところがあるのか伺えればと思います。

○ 市 長 細かく全部はチェックしておりませんが、特に「新しあわせ倍増プラン」、それから「成長戦略」については、よりスピーディーに対応していこうということで、この予算の中にもしっかりと反映しておりますので、それぞれ事業の進捗によって当然予算のつき方は違いますけれども、かなりそれらが反映された予算になっていると思っております。

○テレビ埼玉 テレビ埼玉です。

浦和駅西口とか大宮駅東口の開発というのも選ばれる都市ということであるんですけども、さいたまトリエンナーレの開催ですとか、世界盆栽大会の開催とか、いわゆる都市ブランド、さいたま市としてのブランドの向上という観点も意識されたというふうに考えてよろしいのでしょうか。

○ 市 長 以前もちょっとお話したことがあるかと思いますが、市民の意識調査をしますと、住みやすいとか住み続けたいとっていただいている市民の皆さんが大変多くいらっしゃいます。一番最新の市民意識調査でも、住みやすいとっていただいている方々が81.8%まで上がってきました。

これから私たちがしなければいけないのは、これから急激に進んでいく高齢化の波をできるだけ緩やかにしていく、そのためには選んで住んでもらう、さいたま市に住みたいとっていただけて住んでいただけるようなまちをつくる、それから企業にもさいたま市に進出をしたいとっていただくことが必要だと思いますので、そのために都市ブランドづくり、このイメージというものをすごく重視をしていくことが必要だと私自身は考えておまして、そのために、トリエンナーレもそうですし、世界盆栽大会もその一つでありますし、クリテリウム等もその一つであると考えております。

○ 埼玉新聞 埼玉新聞です。

市長2期目の最初の当初予算になると思っておりますけれども、1期目と比べて特に位置づけを変えたり強めた点というのはどういうところなのかお伺いしたいんですけども、見た限り、まちづくりに関しても、待機児童に関しても、1期目で目指したけれども、積み残ってきた大きな課題をさらに堅実に進めていくというところが一番柱になっているように見えるんですけども、いかがでしょうか。それと、自己採点をお願いします。

○ 市 長 今お話がありましたけれども、特に2期目のところでは、1期目より私

として考えているのは、成長戦略の一つに位置づけております「東日本の中枢都市をつくっていく」のまちづくりに関するところです。ここについては、1期目は比較的財政状況のバランスなどを特に意識をしながら進めてきたわけですが、2期目に当たっては少しその辺を積極的にやっということ。

基盤整備であるとか、そういったものをしていく中では、今後の人口の推計などを見据えていく等、今しかないといいますかね、ここ数年でやっておかなければいけないと感じておりますので、そういったものについては特に積極的にやらせていただいたと思っております。その中で、採点としては難しいですが、90点ぐらいは上げられるのではないかと思います。

○ 埼玉新聞 足りない10点については。

○ 市長 足りない10点は、もちろんもっともっとやりたいことがたくさんあるという部分もありますけども、ただどうしてもそれぞれの事業の進捗に合わせてやっていかなければいけない部分がありますので、その部分のことも踏まえると、完全に100点とは言えないのかなというふうに思っております。そういった点で10点マイナスとしております。

○ 埼玉新聞 続けてなんですけども、地下鉄関連で浦和東部、岩槻南部の事業が上がっていますけれども、これが拡大事業に入っていないというのは、これまでのスケジュールから考えると、遅れている分野として、今のでいったら残りの10点にかかわる事業の関連事業として捉えていますか。

○ 市長 この地下鉄7号線も2都心、4副都心の中の浦和美園は副都心の一つ、そして岩槻まで延伸をすることを目指しておりますので、2つの副都心をつなぐ重要な路線であると考えておりますので、今遅れているまちづくり、私たちはまずこの地域の成長発展をしっかりと進めていこうということで取り組んでおりますので、その中でようやくこれまで進めてきた区画整理事業がだんだん進捗が進んできたというところで、かなり昨年度と比較をして増えていると。

浦和美園周辺の区画整理だけで23億2,244万円の増ということになっておりますので、かなりこのまちづくりが進んできて、増えてきているということが言えると思います。

○ 時事通信 今回の予算を名づけると、何予算というふうに言えますか。

- 市長 選ばれる都市になるためのホップ予算ということで、ホップ・ステップ・ジャンプのホップですね。ホップしていくための予算ですね。
- 時事通信 関連して、今後の先を見通すと、ステップ・ジャンプにはこういったものが必要だと。
- 市長 マニフェストなどで訴えはしてきましたけど、構想自体がまだ固まっていないものなどもありますので、それを固めながら先にきちんと進めていくということがもう少し時間がかかるものも幾つかありますので、そういったものがさらに来年度ステップになる予算になるだろうと思っています。
- 時事通信 市長の今の任期中にジャンプまで持っていくということでしょうか。
- 市長 ジャンプができるように頑張りたいと思います。
- 東京新聞 東京新聞です。よろしくお願いします。
- 待機児童対策に関してなんですけども、今回の事業の中身について、市長の評価と、あとこれによってどういう効果を見込んでいるか教えてください。
- 市長 認可保育所の数については、もう少し増やしたいという思いはあるんですけども、現状のいろんな状況を踏まえて、今回合わせて670の定員増という形にさせていただいていますが、今回12月に配置をしたコンシェルジュが初めてどのように機能するかというところが問われる部分もあります。
- また、多様な保育ニーズに対応していこうということで、保育ママという新しい事業に取り組んだりもしていくつもりでおりますので、それと既存の保育園の空いている枠といいますかね、そこをうまく活用して1、2歳児を充実させるというようなこともかなり工夫をして盛り込んでいると思っていますので、それらがどういう効果をあらわすか、私たちとしては待機児童がより一層少なくなるために効果的な対応だと思っているんですけども、そういった初めての取り組み、今回きめ細やかな取り組みをしていくという意味では効果がそれなりに生まれてくるだろうと思っています。
- ただ、入所の申し込み、申請も非常に多くなっているというのももう一方でございますので、そういった状況も勘案しながら、しあわせ倍増プランの中で、4年間で3,600人の定員を増やしていくという計画でやっております。前の任期の倍以上という数字でありますけれども、それらも

十分状況を見ながら前倒しも含めて進めていくことになるんだろうと思っていますが、まず今回はそういうかなりきめ細やかな配慮をして待機児童の問題に取り組んでいく、ある意味では最初の事業年ということが言えるのではないかと考えています。

○ 東京新聞 ちょっと確認をしたいんですけど、今回待機児童対策が重点配分の一つに入っていると思うんですけど、その重点配分の意味合いとしては、何カ年か計画があって、それをちょっと前倒ししたとか、そういう意味合いなんでしょうか。

○ 市 長 どちらかというと、新しい取り組みを幾つかしているというニュアンスが多いと思います。認可保育所の数、定員を増やすということでは、去年は八百幾つやって(842人増やして)(会見後修正) いますので、それと比較するとむしろ少なくなっているんですけども、今後それはさらに一層増やすということで進めているわけですけども、その部分では皆さんから見るとあまり増えていないんじゃないかというご指摘もあるかもしれませんが、それに加えて、今言ったようなコンシェルジュとか、あるいは枠の有効な活用であるとか、あるいは保育ママという新しい事業をやるとかというような形できめ細やかな対応をしていこうという取り組みが実質的に始まっていく最初の年になると思っています。

○日本経済新聞 さいたまクリテリウムの関連予算が昨年に比べると額が倍増になっておりますけど、この規模についてご見解をいただければと思います。

○ 市 長 基本的には、昨年の開催実績をベースにした経費を予算として計上させていただきます。事業費全体としては6億6,000万円と見込んでおりまして、そのうち3億3,000万円を企業あるいは個人からの協賛、オフィシャルグッズの売り上げ、それから有料席の売り上げなどで賄おうと。

残りの3億3,000万円を市からの補助金という形で予算計上しておりますが、いずれにいたしましてもより一層歳入を増やしていくという取り組み、あるいは歳出を削るという取り組みは、予算を確保した形で計上しておりますが、より一層努めていかなければいけないと考えております。

○ 埼玉新聞 総事業費が約1億円増えた部分について説明していただけますか。

○ 市 長 これについては、1つはまだコースが最終的に決定しておりませんが、

昨年度と比較をしますと、昨年以上にたくさんの方がお越しになる可能性が高いと思っております。そうしますと、その観客をしっかりとめられる容量といたしますか、コース設定が必要になると思うんです。

そうしますと、コースのほうも少し長目になってくるだろうということもありまして、それを勘案しまして、その警備費等について増やしているというのが1つと、もう一つは広報等についてもいろいろ十分ではないのではないかというようなご指摘をいただきましたので、そういったことにも配慮した形の予算ということにさせていただきます。

ただ、先ほども言いましたけども、より一層それらをどう減していくかということは、今後運営していただく組織、実行委員会等でさらに精査をして、支出については削減をしていただいたり、あるいは収入については増やす努力をしていただくということがあると思います。

○ 埼玉新聞 コース1周2.7キロというのは、どの程度の延長を考えられていますか。

○ 市 長 コースについては、今後ASOとか警察とか関係機関との協議なども必要ですので、まだ何キロということまでは申し上げられませんが、多少幾つかのコースなどを想定して協議を進めていこうとは思っております。

○ 読売新聞 読売新聞です。

関連してなんですけれども、昨年市議会からも指摘された事項がたくさんあるかと思うんですけれども、その準備状況と、あと今後組織をどうやって見直すかという点を聞かせていただきたいのと、あと開催時期はどのくらいを見込んでいるのか、あわせて聞かせていただければと思います。

○ 市 長 まず、組織の見直しについては、実行委員会形式がいいのかどうかというようなご議論もありました。ただ、現時点では、民間の人材とか、あるいは民間の資金を活用する手段としては、すぐ来年度ということと考えると、実行委員会形式ということが中心になってくるかなと思っておりますが、その中でこれまで参画をしていただいた団体以外にももう少し拡充をしていこうとも考えておりますし、その中でより一層体制が拡充をしていけるように進めていきたいと考えております。

また、事務局についても、1つには、観光協会と市の観光政策課等が2元

管理みたいになっていて意思疎通が十分ではなかったというようなご指摘もございましたので、その辺については1つにして進めていきたいと思っております。

特に実施する庁内の体制としては、新たにスポーツイベント室というものを設置しようと考えておりました、そこで今後、さいたまクリテリウムだけではありませんが、大規模スポーツイベントなどを専属的に担当できるような部署ということで、それらを設けて一元的に管理をしていくと、庁内的にはそういう体制を考えております。また、外部も巻き込んだものとしては、これまで以上に幾つかの団体にも入っていただいて、充実をさせた形で進めていきたい、このように思っております。

開催時期もASOも含めて、警察等々関係機関ともまだ協議をしていかなければなりませんので、まだいつごろということは申し上げられませんけれども、基本的には昨年と同じぐらいのタイミングの時期になるのではないかと考えておりますが、今後、調整をして決定をさせていただくことになるだろうと思います。

○ 読売新聞 もう一つ、済みません。準備遅れが去年は指摘されまして、去年12月の段階では早いうちにスタートが切れるようにしたいということでしたけれども、現時点で正式契約ですとか、そういった交渉はどうなっていますでしょうか。

○ 市長 まだ、当然正式契約というところまでは全然いつているわけではありませんけれども、ただASOといろんなお話はさせていただいております。ですので、正式には予算が議決をしてからということになる分も多くあると思いますけれども、その前の準備としてできることについてはしっかり準備を進めていくということをしていきたいと思っております。

○ 朝日新聞 朝日新聞です。
今のクリテリウムの予算なんですけれども、補助金以外の3億3,000万円のほうのスキームを教えていただければ。要するに協賛金が幾らとか、民間の団体から補助金が幾らとあってあると思うんですけど、今どういうふうな6億6,000万が集まっているのでしょうか。

○ 市長 できれば、詳細については、当初予算これから審議ありますので、そこでご説明をさせていただければと思います。ただ、当然協賛金については、

昨年度以上のことを考えております。

- 毎日新聞 毎日新聞です。
クリテリウムに関連して、コース設定ですとか実施時期は協議中ということだったんですが、これは3月予算成立後には、それも含めて、発表できるような、そういうスケジュールで進めるんですか。それとも正式契約をした後に、コースですとか、あるいは実施時期というのは、また4月以降に検討が必要となるのでしょうか。
- 市長 予定としてはですね、正式契約をする際には、時期とかコースがやはり、全然動かせないという状況ではないかもしれませんが、ある程度フィクスした状況で契約をし、発表させていただくのがいいのではないかと思っております。
- 毎日新聞 それが可能となる状況で、今交渉してきているということですか。
- 市長 交渉というか、話等はさせていただいております。
- 共同通信 共同通信ですけれども、大宮駅の機能高度化についてお聞きしたいんですが、市長は今の大宮駅がどのように変わっていくのが望ましいと考えているのか、その具体的な将来像について教えてもらえますか。
- 市長 十分私の中でイメージが固まっているわけではありませんけれども、これまでも議会の中で、例えばJRと東武線とのアクセスの問題であるとか、あるいは私たち今年度から大宮始発の新幹線を、ということで要望したりもしておりますけれども、例えばそういうことが可能な駅であるというようなことだとか、あるいはこれから大宮駅が東日本のかなり中心的な役割を果たす駅になるのではないかと、あるいはなっしてほしいという思いもありますので、その中でどういう役割を、どういう機能を持ったらいいいのかということで、それぞれの思いを、少し意見交換をしながら固めていったり、あるいは意見交換をさせてもらう。その中で、課題やいろんなことを整理をしていくということが必要かなと思っておりますけれども。
- 共同通信 ありがとうございます。
- 朝日新聞 それでは、幹事社として代表質問をさせていただきたいと思います。質問はまとめて行いますので、よろしくお願いします。

幹事社質問：

- ① クリテリウム事業の補助金を増額した専決処分に関する議会の採決結果に対する感想
- ② 認可保育所の4月入所分の一次選考の結果と待機児童数の削減目標について

まず1点目が、今もお話に出ましたようにクリテリウム事業の関係なんですけども、補助金を追加した専決処分についての議案が7日の日に提出されて、承認されました。それについての市長の感想をまずお願いします。

2つ目、認可保育所の4月分入所1次選考があつて、恐らく出たと思うんですけども、その結果を教えていただければと思います。また、その結果を受けてですね、保育コンシェルジュを導入して初めての年にことしはなると思うんですが、待機児童数をどこまで減らそうと考えているのか、市長の目標値があつたら教えていただけますか。

○ 市長 それでは、幹事社の質問に順次お答えをしたいと思います。

まず、1点目の専決処分についての感想ということでございますが、このたび提出をいたしました国際自転車競技大会事業に係る補正予算の専決処分につきましては、さきの2月7日に議会のご承認をいただきましたが、その際の議長の発言、あるいは議案審議におきまして、議会との意思疎通や市民に対する説明責任の重要性などについて、厳しいご指摘をいただいたことを真摯に受けとめていきたいと考えております。

先日の行政報告でも申し上げましたが、12月議会で審議未了のまま廃案になった経緯につきましても深く反省をしているところであり、議会への予算案の提出に当たりましては今後とも丁寧な説明に努め、市民の皆様にご心配をかけることのないよう十分に留意をしていきたいと思っております。以上です。

それからもう一つが、認可保育所の質問についてでございますが、1次選考の結果につきましては、2月7日に申込者に送付をさせていただいたところでございます。結果の内容といたしますと、平成26年4月開設分として670人の認可保育所の定員増を行ったところですが、新規入所申

込者数が5,644人と、昨年と比較をしますと約600人増えておりまして、入所承諾者数も3,489人、不承諾者数も2,155人と、それぞれ増えている状況となっております。

要因は、さまざまあると思われませんが、全国的な傾向として、女性の社会進出が進んでいることや共働き世帯が増加をしていることに加え、国が昨年策定をいたしました「待機児童解消加速化プラン」などの子育て支援に関する取り組みの動向などから、保育に対する潜在的な需要が喚起されたということもその一因ではないかと思えます。

今回不承諾になられた方々には、昨年12月から区役所に配置をいたしました保育コンシェルジュによりまして、窓口や電話による問い合わせの中で個々のニーズを、あるいは現状、あるいは現況というものを伺いながら、ナーサリールームや家庭保育室の空き状況、また幼稚園の預かり保育実施園などの情報提供をさせていただくことで、一人でも多くのお子さんが保育サービスを受けられるようにしてまいりますとともに、待機児童数が一人でも減るように進めていきたいと考えております。

また、今後の取り組みとして、来年4月の開設に向けて、認可保育所の整備につきましても、特に待機児童の多い地域を重点地域としつつ、市全体でしあわせ倍増プラン2013における26年度の目標であります810人の定員増を目指して整備をしていきたいと考えております。

ほかにも整備案件の協議が出ることによりまして、昨年12月に策定をしました「しあわせ倍増プラン2013」に盛り込んだ新待機児童プロジェクトに掲げました3,600人の定員増についても、少し前倒しをして取り組んでいくということも含めて取り組んでいきたいと思っております。

さらに（会見後追加） ナーサリールーム、また家庭保育室の新規認定を行うなどの取り組みも含めて進めていき、平成29年4月までに待機児童をゼロとすることを目標に事業を進めていきたいと思えます。

私からは以上です。

幹事社質問回答に関する質問

○ 朝日新聞

まず、1点質問させていただきます。

議会の初日にですね、清水勇人市長の方から、市民と議会に対して負担

をかけたとお詫びをするということを行政報告されていましたが、政治家としてですね、どのような責任をとろうと考えていらっしゃるかというのをお聞かせください。

○ 市長 まず、議会でも申し上げましたけれども、この事業はさいたま市にとっても、先ほど予算の関係でもお答えしましたが、1つはさいたま市のブランド化という視点からも、それから今後急速に進んでいく高齢化ということ踏まえた健康づくりというような視点からも、あるいはさいたま市が特に重点的に取り組んでいます環境先進都市としての取り組みの中でも、やはりこの自転車のまちづくりというものを進めていくことが大変重要であると考えておまして、こういったことなど総合的に考えて、大変重要な、大きな役割を果たしてくれるイベントだと思っております。

ただ、残念ながら、去年は初めての開催ということなどもありまして、運営等々について必ずしもうまくできたとはいえない部分が多々あったと思っております。それらをしっかりと運営をしていく。そして、できるだけ市民の皆さんの負担のかからないような形にしていくということが私に課せられた大きな責務であると思っております。

○ 朝日新聞 では、各社さん、どうぞ。

○ 埼玉新聞 埼玉新聞です。

不承諾なんですけども、後ほど、可能でしたら各区ごとの不承諾数を教えてください。

それとですね、地域によって偏りがあるということを知ったんですけども、やはり浦和区とかマンション急増地域で子育て増が、子供の世代の増加に対応できなかったというのは、若干の、やはり1期目からの待機児童ゼロを目指していた清水勇人市長としても読み違えというか、読みの甘さがあったのではないかと思うんですけども、いかがでしょうか。今回の2,100で、前回より600人くらい、600人増えているわけですよ、恐らく。いかがでしょう。

○ 市長 まず、区ごとの承認数のデータについては後ほど担当のほうからお知らせをしたいと思います。

それから、見込みとして、やはりかなり保育所に対する、特に認可保育所を中心とした保育所に対するニーズが非常に高いという状況が今あると

思っております、それらの部分について、私が想定していた以上にその辺のニーズが高くなっている。これは、社会経済の情勢もあるでしょう。あと、さいたま市の問題として、マンションなどがたくさんできて、非常に社会増が多いということもあると思いますけども、ただ私たちは大型のマンションなどについては、その辺の対策等々は意識してやらせていただいているつもりですけども、大型のものばかりでなくて、ありがたいことに、子育て世代の方々がたくさんさいたま市に住んでくださっているという状況がありますので、私たちもそういったニーズを十分に踏まえてやっていかなくてはならない。

そういう意味では、見込み以上にそういったニーズが生まれているというご指摘はそのとおりだと思いますし、その辺も含めて私たちも検討を進めていかなくちゃいけないと思っております。

○ 東京新聞 保育コンシェルジュについてなんですけれども、例えば南区だとかすごい人口が多いところでは、その認可外の保育所を含めて、かなりコンシェルジュさんが仲介できる先というのは限られていると思うんですけど、そういった地域によってコンシェルジュのできることの差ができてしまうことについては、どういうお考えを持っていますか。

○ 市長 当然ナーサリー、あるいは家庭保育室、あるいは幼稚園の預かり保育なども含めて、代替手段が提示しにくい場所ということも出てくるかと思うんですけども、1つは私たちとしては、今までどちらかという承諾と不承諾ぐらいで、余り多くの情報を必ずしも十分に提供できなかったという反省点もありますので、そういった相談に乗って、解消をしてあげる、あるいはニーズを十分私たちが把握をするということも、これは非常に重要なコンシェルジュを置く目的の一つにもなろうかと思っておりますので、そういった中で来年度以降の対応などについても私たちが見直さなければいけないことであるとか、あるいは充実をさせなければいけないことだとかというのが出てくるんじゃないかと思っておりますので、その中で、とにかく今これからはまさにコンシェルジュが活動する本番にもなろうかと思っておりますので、その中でまた状況を見て私たちとしても判断し、また考えていきたいと思っております。

○ 埼玉新聞 クリテリウムの専決処分に戻るんですけども、昨年ですね、廃案になっ

たとき市長は、専決というのは100%あり得ないわけじゃないけれども、本筋からいえば再提出して、審議を議会にしてもらおうということをおっしゃっていました。これ結局専決となったことは、日程上の話も説明されていましたが、議会から、再提出した場合に可決の見込みがないからじゃないかということをおっしゃっていますけれども、そのあたりも一因となっているのでしょうか。

○ 市長 この専決処分にしたというのは議会等でも申し上げておりますとおり、日程の部分も含めて、総合的に判断をしてやらせていただいたということでありまして、その後専決処分についてはご承認をいただいているということもございますので、そういうことだということですね。

ただ、本来はやはり議会の中できちっと議論をされて、ご議決をいただくというのが本筋であろうとは思っています。そういう意味では、それができなかったことについては責任を感じております。

○ 毎日新聞 クリテリウムの関係で先ほど実行委員会方式は続けたいというような趣旨だったと思うんですが、今年度と同じ失敗を繰り返さないという点で、途中で収支の状況を細かく実行委員会が報告されるですとか、あるいは議会にも、どういう形なのかちょっとわからないんですが、委員会を通じて報告されるですとか、そういう収支の透明性を図っていくための改善という部分は考えていらっしゃるんですか。

○ 市長 そうですね。今もお話がありましたように、議会の皆さんからもご指摘をいただいておりますように、ちょっと形式的な形の実行委員会だったんじゃないかというふうなご批判もございましたので、やはり折々にいろんな状況を、そういった予算の状況も含めていろんな報告をきちっとしていくと。これは、議会に対してもそういった報告などをしっかりやっていこうとは思っております。

○ 毎日新聞 協賛金の集まりぐあいですとか、それも、今年度はちょっと公表することは差し支えがあるというようなお話が何度かあったと思うんですが、次年度はそれは公表の。

○ 市長 そうですね。その辺についても適宜報告をさせていただくことになるんじゃないかなと思います。

○ 朝日新聞 それでは、今までの質問以外に質問がある方はよろしくお願ひします。

その他：東京都知事選の結果について

- 時事通信 時事通信です。
- 昨日の東京都知事選のことにに関して伺います。舛添さんが大差で都知事に選ばれるという結果になりましたが、まずこの結果についての受けとめと、あともう一点、舛添新知事に望むことを、この2点お願いします。
- 市長 まず、きのうの結果についてですけども、今回の東京都知事選挙は、1つは2020年に東京オリンピック・パラリンピックという大きな大会を控えてこれから東京がどのようなまちづくりをしていくのか、それから急激に進んでいく高齢化の問題などもありますので、そういった問題にどう対応していくのか等々、あるいは原発の問題もそのうちの1つだったんだろーと思いますけども、そういったものの中で東京都民の皆さんが総合的に判断をして、やっぱり厚生労働大臣の経験もある、あるいは国際的な活動もされていらっしゃる舛添さんを選ばれたということなんだろうと思っております。
- 舛添さんに期待することですけども、私たちも9都県市首脳会議などで定期的に議論をしたり、あるいは連携をしたりする機会が今後も増えてくるようになると思います。
- 特に2020年のオリンピックの大会の成功に向けて、いろいろ私たちも東京に協力していく部分もあろうかと思っておりますし、また東京自身はやはり地方自治体のまさにリーダーとも言うべきところでもありますから、日本のそういう地方自治の一つのリーダーとしても大いに活躍をしていただくことを期待したいと思っております。
- 時事通信 具体的にこういう点で連携したいとか、こういうことを期待しているというのはありますか。
- 市長 1つは、まずはやっぱりオリンピックの問題があるかなと思っております。さいたま市もサッカーの会場ということにもなりますし、たくさんの外国からのお客様が東京あるいは首都圏においでいただけるということが想定されておりますので、その中でどう連携をして、しっかりともてなせる体制をつくっていくのかということなどを含めてしっかり議論をしながら

ら、長いようで短い、そんなに多くの時間があるとも思えませんので、その中で十分議論をしながら取り組んでいきたいなと思っています。

- 時事通信 ありがとうございました。

その他：川口市長選の結果について

- 埼玉新聞 きのうの川口市長選の結果についても聞きたいと思います。

- 市長 川口市長選挙については、今回4人の候補が立って、市庁舎の問題など、幾つかの政策を掲げられて選挙戦が行われたわけですが、当選された奥ノ木前県会議員が掲げた中核市への移行であるとか、あるいは保育所の設置など、そういった政策が評価をされて、そういう結果になったんだろうと理解をしております。

ただ、さいたま市と川口市は隣接をしておりますので、行政面であったり、あるいは経済面でもいろいろなつながりがございますし、また現時点でも地下鉄7号線の問題であったり、あるいは見沼田んぼの問題なども連携して取り組んでいるところでありますので、今後もそういったことなどの問題についていろいろ話し合いをしながら連携して取り組んでいきたいと思っております。

- 朝日新聞 よろしいでしょうか。

それでは、どうもありがとうございました。

以上をもちまして記者からの質問を終了させていただきます。

- 進 行 以上をもちまして、市長定例記者会見を終了させていただきます。

なお、次回の開催につきましては、3月6日木曜日、13時30分から予定しておりますので、よろしく願いいたします。どうもお疲れさまでございました。

午後2時40分閉会

※ この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣いなどを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）あるいは「会見後訂正」とし、下線を付しています。